

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(オマーン:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/Oman.html> )

(その他 MENA イスラム諸国:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MenaOicCountries.html> )

マイライブラリー:0288

(注)本稿は 2013 年 11 月 20 日と 22 日の 2 回にわたりブログ「アラビア半島定点観測」及び「内外の石油情報を読み解く」に掲載した記事をまとめたです。

2013.11.23

前田 高行

### (ニュースのもう一つの視点)イランとの独自外交に賭ける日本とオマーン

目次	頁
カブース国王、イランを訪問	2
岸田外相、イランを訪問	2
イランの天然ガスを取り込むオマーン	2
オマーンと日本は似た者同士	3

筆者は10年近くにわたりブログ「アラビア半島定点観測」および「内外の石油情報を読み解く」を続けている。ブログでは毎日 GCC 各国のインターネット版新聞(英文)を中心に内外の中東・石油関連の情報を収集し、重要な記事を紹介している。その多くは各国或いは各企業特有の情報であり他のニュースとの関連性は薄い、時折異なる国・企業の複数のニュースに相互の関連性をうかがわせるものがある。ここでは「ニュースのもう一つの視点」というタイトルで関連記事をまとめて解説を試みる。取り上げるニュースは国際政治・経済の大きな潮流の中の小さな渦であり、潮流全体を変える力を持っていたかどうかは将来明らかになる代物であろう。

今回は核開発疑惑と経済制裁をめぐり欧米の大国及び湾岸 GCC 諸国がイランと対峙する陰で日本とオマーンが独自の外交ルートで解決策を見出そうとしていることに注目した。まず最近のニュースをいくつか列挙してみよう。

- ・ カブース・オマーン国王、イランを訪問。就任直後のロウハニ大統領と会談。(8/25 付け Oman Daily Observer<sup>1</sup>)
- ・ オマーンとイラン、今後25年間のガス供給契約締結。(8/28 付け Kuwait Times<sup>2</sup>)
- ・ オマーン国防相イラン訪問、防衛問題で意見交換。(9/18 付け Oman Daily Observer<sup>3</sup>)
- ・ 岸田外相、イランを訪問、ロウハニ大統領他と会談。(11/8-13, 外務省ホームページ<sup>4</sup>)
- ・ 宮川外務省中東アフリカ局長、オマーンで同国外務省 Secretary General バドル・ブサイディ氏と会談

## カブース国王、イランを訪問



8月下旬、オマーンのカブース国王がイランを訪問、ハメネイ最高指導者及び就任早々のロウハニ大統領と会談した。新大統領が最初に迎えた外国元首であるが、それよりも世界が驚いたのは殆ど外国を訪問せず GCC サミットですら代理を送り込むことの多いカブース国王が自らテヘランに乗り込んだことである。ホルムズ海峡を挟むイランとオマーンは古くから交流があり、アハマドネジャド前政権時代も人道問題でオマーンが欧米との仲介役を果たすなど地道な外交が継続している。今回穏健派と目されるロウハニ大統領が誕生したことでカブース国王は新たな両国関係を築くチ

ャンスと考えたに違いない。

カブース国王訪問時に両国の間で軍事、文化、経済各分野に関する協定が取り交わされた。そして9月には国防相がイランを訪問、軍事協力について協議し、また情報相もメディア及び文化協力についてイラン側と話し合っている<sup>6</sup>。さらに両国の間で2015年から25年間にわたりイラン産天然ガスを供給する覚書も締結された。

## 岸田外相、イランを訪問

一方日本からは11月初め岸田外相がイランを訪問している。ジュネーブでイランとEU3 + 3 の核問題協議が行われたまさにその時であり、岸田外相は大統領、国会議長と会談、さらにジュネーブから帰国早々のザリーフ外相とも会談した。会談では日本イランの二国間関係のほか焦点の核協議で日本が果たすことのできる役割について意見交換がされた(詳細は外務省ホームページ参照)。

岸田外相のイラン訪問後まもなく宮川外務省中東アフリカ局長がオマーンを訪れ、同国外務省 Secretary General の Badr 氏と会談している。詳細は不明であるが、イラン核問題について日本・オマーン両国の協力の可能性を探り、さらにホルムズ海峡を共有するイランとオマーンがどのような話し合いを行っているかを確認したものと思われる。イスラエルによるイラン核施設の単独爆撃がささやかれる中でホルムズ海峡の安全航行問題が日本の重大懸念事項であることは改めて言うまでもない。

## イランの天然ガスを取り込むオマーン

カブース国王のイラン訪問時に取り交わされた覚書の中で筆者は天然ガス供給の覚書に注目したい。これはホルムズ海峡に海底パイプラインを敷設し、25年間にわたり600億ドル相当の天然ガスをイランからオマーンに輸出すると言う構想である。

イランは南パルスガス田(カタルのノースフィールドとつながる世界最大のガス田)を含め国内に多数のガス田があるが、西欧諸国の経済制裁のため先端技術を必要とする LNG 設備を建設することができない。一方、オマーンは天然ガス資源が枯渇傾向にあり国内の発電用燃料が不足、また輸出用 LNG 設備の稼働率も低迷していると言われる。

両国の事情を勘案すると天然ガスパイプラインは一石二鳥或いは三鳥の計画と言えよう。イランにとって天然ガス輸出は手っ取り早い外貨獲得手段である。また天然ガス不足に悩むオマーンは現在ドルフィンパイプラインによりカタルから天然ガスを輸入しているが中継地の UAE のガス需要が急増している。そのため代替輸入先としてのイランに注目している。LNG については、もしイランが自国産天然ガスをオマーンで委託処理し LNG として輸出することができれば、新たな外貨獲得源になると共に自国の LNG 設備新設(それは巨額の費用と長い年月が必要である)までの時間稼ぎが可能となる。オマーンにとっても既存 LNG 設備の稼働率が上がり、両国にとって一石二鳥のアイデアである。

これらはいずれも現在の経済制裁が緩和されることが条件であるが、イランと EU3+3 の交渉に明るい兆しが見えており、あながち夢物語とは言えない。イランとオマーンはそのような状況を見越して協力覚書を交わしたに違いない。

### **オマーンと日本は似た者同士**

突拍子もない仮説と言われるかもしれないが筆者は日本とオマーンはイランに対するエネルギーあるいは国際外交関係で似たような立場にあると考える。

エネルギー関係で見ると欧米先進国に歩調を合わせたイラン経済制裁の結果日本のイランからの原油輸入は激減している。石油の9割を中東に依存する日本にとってイラン原油の輸入削減は痛手である。本心を言えば対イラン経済制裁は一刻も早く緩和してもらいたいところである。米国には国産のシェールオイルが、またヨーロッパ諸国にはリビア、アフリカ、南米などの輸入ルートがある。欧米先進国にとってイラン経済制裁の影響は少ない。困っているのは日本だけなのである。オマーンも国際社会のイラン経済制裁が緩和されれば大きなメリットがあることは上記の天然ガス供給覚書の項で述べた通りである。

外交関係で見ると日本は欧米先進国に引っ張られ不本意ながらイラン制裁に同調している格好である。日本は米国及び西欧キリスト教国家のイスラム嫌い(Islam phobia)、イラン嫌いにつきあわされているのであり、日本とイランは敵意どころか親近感を持っていると考えて良いのではなかろうか。同じようなことが GCC 加盟国としてのオマーンにも言えるのである。オマーン以外の GCC5カ国(サウジアラビア、UAE、クウェイト、カタル及びバハレーン)はいずれもスンニ派でありシーア派のイランを敵視している。スンニ派が多数を占めるバハレーン或いは国内に少なからぬシーア派を抱えるサウジアラビアやクウェイトは特に警戒心が強い。それに対してオマーンはスンニ派、シーア派いずれにも属さない(イバード派)。従ってオマーンはサウジアラビアが音頭を取るイラン敵視政策に対しては一線を画している。

あえて付け加えれば宗教問題だけではなくオマーンは統治の正統性についても他の GCC 諸国と一線を画しているのである。即ちオマーンは「スルタン国」と言う国名にイスラム教国家としての歴史的な正統性を主張しているのであり、サウジアラビアのような「世俗王制国家」或いは UAE、クウェイトのような「首長国」(オスマントルコからお墨付きを得た地方豪族)とは異なることに強い誇りを持っているのである。その点は日本国民が欧米キリスト教国家とは歴史も文化も異なる「東洋」の「天皇制国家(勿論立憲君主制ではあるが)」を自負していることと似通っている。

日本とオマーンは似た者同士なのである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)

- 
- <sup>1</sup> Oman Daily Observer on 2013/8/25, 'HM to begin Iran visit' <http://omanobserver.com/?p=9007>
  - <sup>2</sup> Kuwait Times on 2013/8/28, 'Oman signs MoU to import Iranian gas – 25-year deal valued at \$60bn' <http://news.kuwaittimes.net/oman-signs-mou-import-iranian-gas-25-year-deal-valued-60bn/>
  - <sup>3</sup> Oman Daily Observer on 2012/9/18, 'Oman, Iran strengthen military ties' <http://main.omanobserver.com/?p=14421>
  - <sup>4</sup> 外務省ホームページ「岸田外務大臣のイラン・イスラム共和国訪問(結果概要)」  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page18\\_000103.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page18_000103.html)
  - <sup>5</sup> Oman Daily Observer on 2013/11/15, 'Talks focus on enhancing cooperation with Japan' <http://main.omanobserver.com/?p=30490>
  - <sup>6</sup> Oman Daily Observer, 'Oman, Iran to expand media, cultural ties' <http://main.omanobserver.com/?p=12501>